

農林水産部

もったいない水の リサイクルプロジェクトをPR

Point

再生水で育てた農産物の安全性を知ってもらうため、5月12日（月）豊見城市に設置した「再生水PR農園」において地元の小学校3・4年生約260名及び教育関係者等の参加のもと、イモの苗植付けによるPR活動を行いました。

沖縄総合事務局土地改良総合事務所では、日本初、”都市下水処理水の再生水利用による国営かんがい事業（もったいない水のリサイクルプロジェクト）の地区調査「島尻地区」について、農家や消費者への啓発や意向把握のため様々な取組を行っています。

取組の一環として、食の安全性について関心を持っている教育関係者や児童・父母に対し、再生水で育てた農産物の安全性を知ってもらうため、5月12日（月）豊見城市に設置した「再生水PR農園」において地元の小学校3・4年生約260名及び教育関係者等の参加のもと、イモの苗植付けによるPR活動を行いました。

当日は、当事務所担当者から

「もったいない水のリサイクルプロジェクト」の内容や、イモの苗植付けに関してパネルを使って説明を行いました。参加者は沖縄特産の紅芋など3種類を用い2,500本余りの苗を植え付けし、再生水での水掛けを行いました。児童からは、「再生水はエコにもつながるやさしい取組だと思います」、「イモの苗を初めて見たー。収穫が楽しみですー」などの感想がありました。一方先生方からは、「社会科の授業で、3年生は『地域の産業』というテーマで、また、4年生は『生活基盤』というテーマで水や電気などについて学びます。このような再生水を活用した農業体験は生きた教材であり、限りある資源を上手に使うことを自分達の体験として学ぶことができ、大変有意義でした」との感想も

ありました。

また、各家庭でも再生水の話題があがるように「もったいない水のリサイクルプロジェクト」PRパンフレットを配布しました。

今回の模様がNHK九州・沖縄のニュースで、もったいない水のリサイクルプロジェクトが評価され紹介されました。

再生水利用大規模かんがいプロジェクトの事業構想（案）については本プロジェクトに係る4市町（糸満市、豊見城市、南城市、八重瀬町）の「広報誌」の5月号に、掲載されております。

再生水での水掛け



再生水利用プロジェクトの説明風景



（土地改良総合事務所）